

令和5年度徳島県公立高等学校入学学力検査  
集計結果について

徳島県教育委員会教育創生課

## 令和 5 年 度

### 徳島県公立高等学校入学学力検査（育成型選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（育成型選抜）は、検査Ⅰ（国語、社会、英語）、検査Ⅱ（数学、理科、英語）の2部構成とし、5教科について実施した。

配点は、各教科40点満点で、学力検査の総点は、200点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な学力の定着の程度を中心にみることができるよう配慮するとともに、思考力を用いて解く問題も出題した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、54.8点であり、昨年度より3.3点高かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

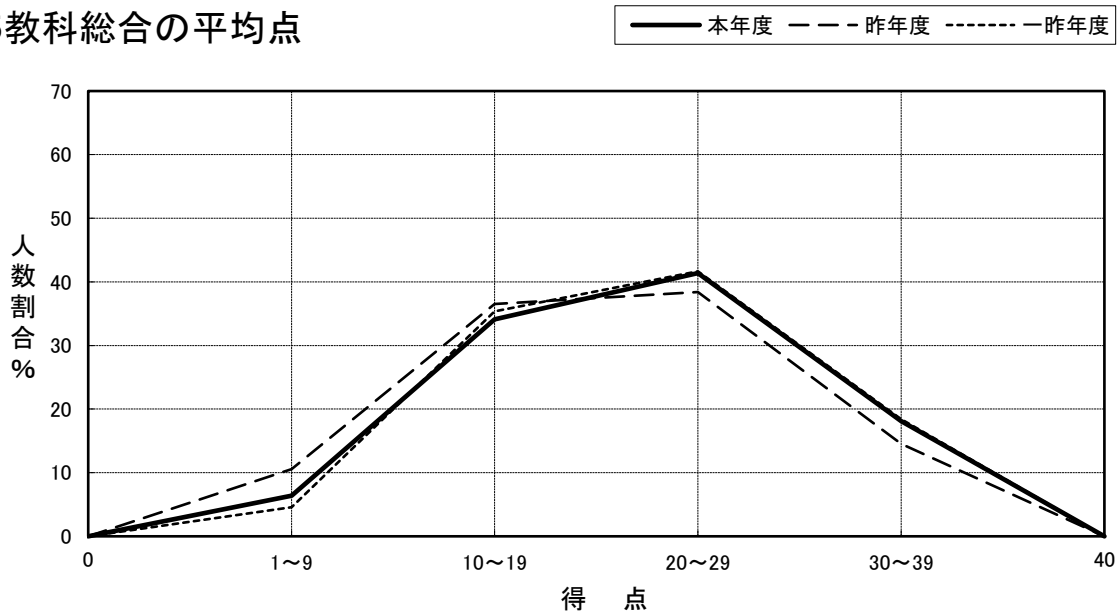
令和5年度  
徳島県公立高等学校入学学力検査(育成型選抜)成績表

受検者総数 812名

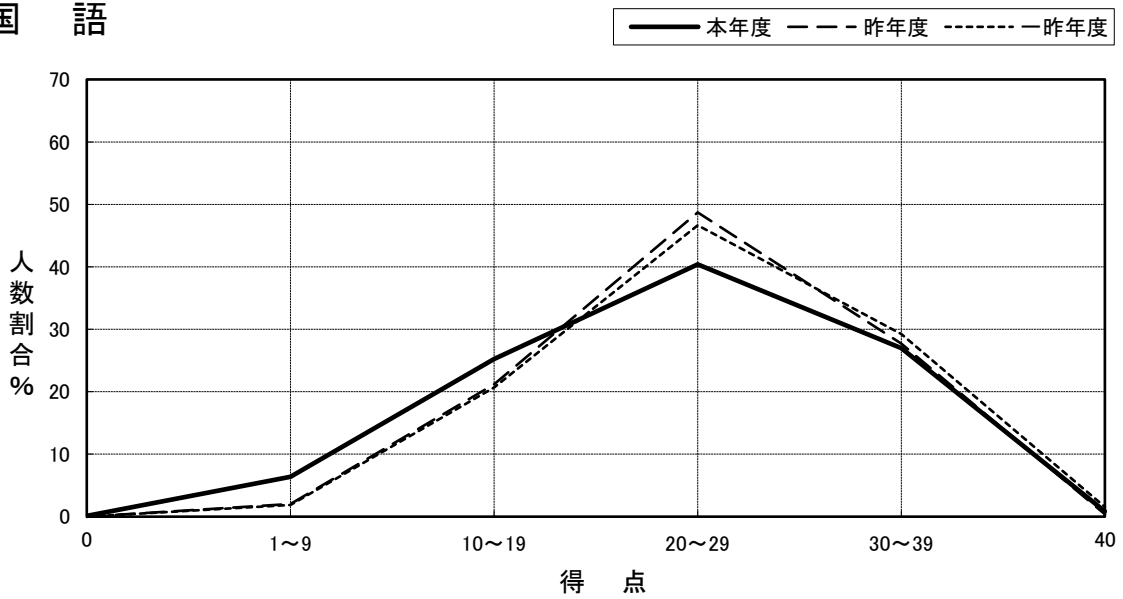
年度 教科	令和5年度		令和4年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和4年度		過去5 か年の 平均点
	平均点 (40点満点)	標準偏差			平均点 (40点満点)	標準偏差	
国語	23.5	8.4	- 1.4	+ 0.2	24.9	7.3	23.3
数学	24.1	9.9	+ 5.0	+ 2.0	19.1	10.5	22.1
社会	16.7	8.9	- 3.2	- 4.2	19.9	10.3	20.9
理科	22.2	7.4	+ 3.2	+ 2.0	19.0	9.1	20.2
英語	22.9	10.9	+ 2.8	+ 2.1	20.1	10.1	20.8
5教科総合	21.9	7.5	+ 1.3	+ 0.4	20.6	8.1	21.5

年度 教科	平均点						
	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
国語	19.4	23.0	23.8	25.2	24.9	23.5	58.8%
数学	23.9	24.1	19.2	24.4	19.1	24.1	60.3%
社会	18.3	23.2	18.7	24.3	19.9	16.7	41.8%
理科	18.3	23.6	19.7	20.3	19.0	22.2	55.5%
英語	22.0	23.5	21.1	17.2	20.1	22.9	57.3%
5教科総合	20.4	23.5	20.5	22.3	20.6	21.9	54.8%

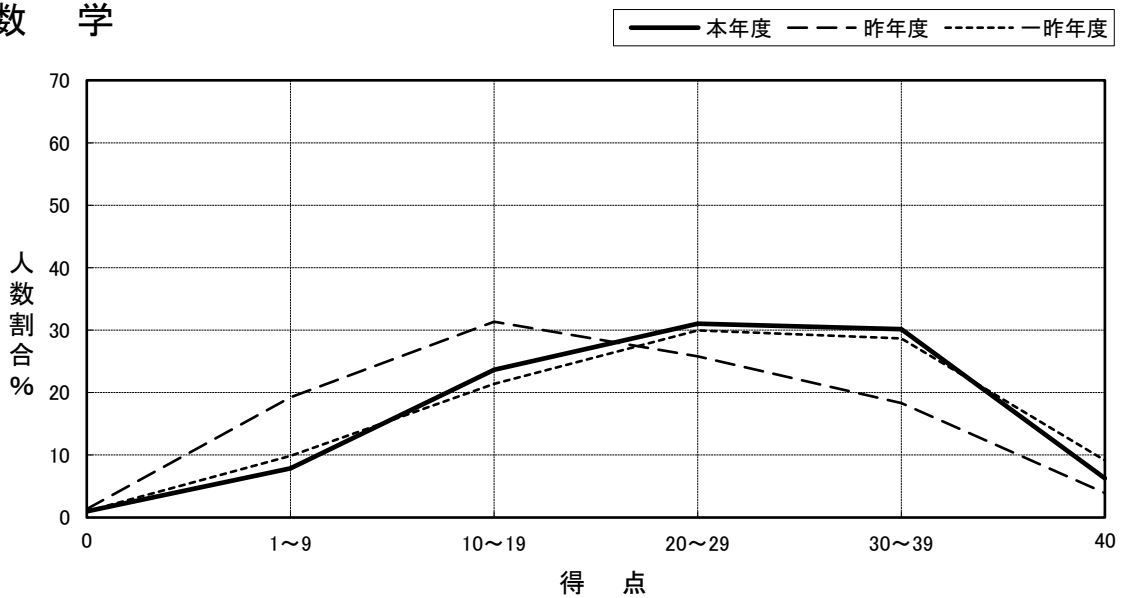
育成型選抜  
5教科総合の平均点



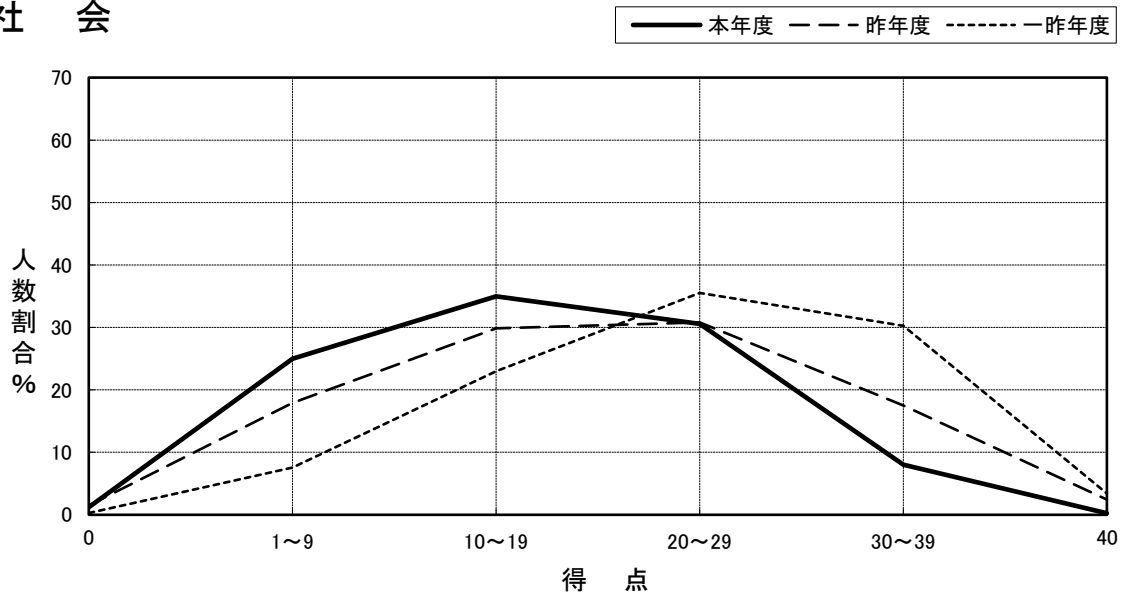
国語



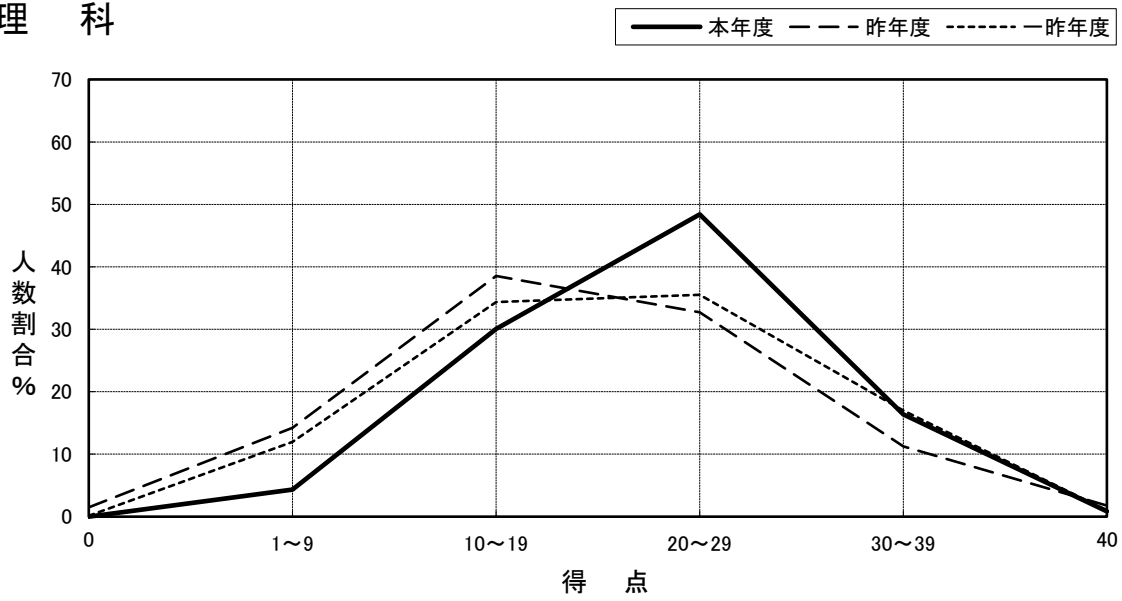
数学



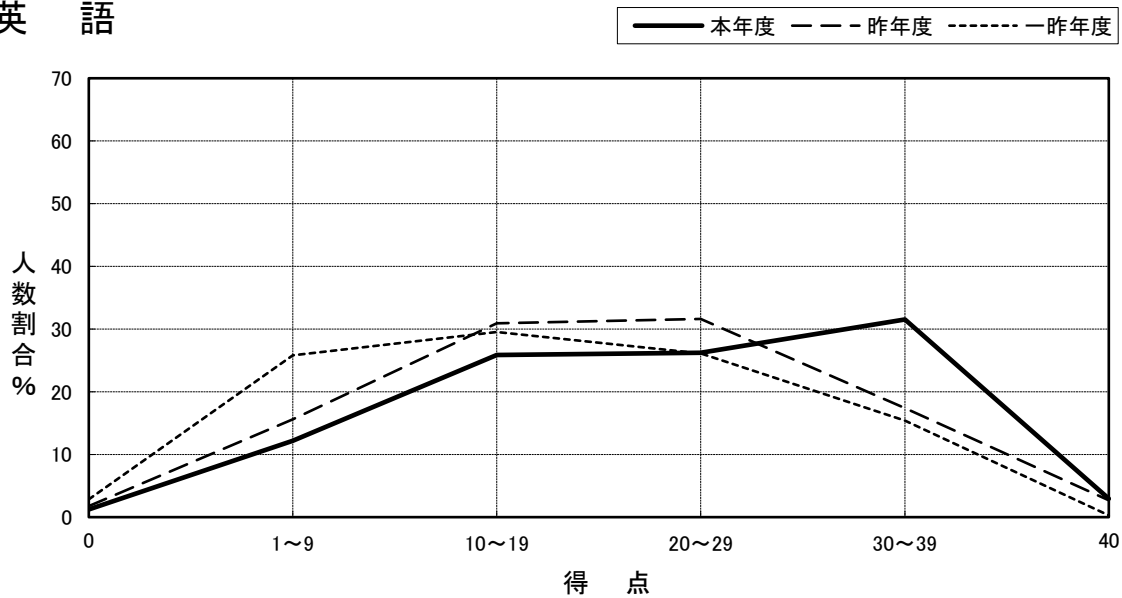
# 社 会



# 理 科



# 英 語



## 令和 5 年 度

### 徳島県公立高等学校入学学力検査の成績結果（一般選抜）の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の 5 教科について実施した。

配点は、各教科 100 点満点で、学力検査の総点は、500 点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力・判断力・表現力等をみることができ問題となるように配慮した。様々な思考過程により解答を導くことができる問題や多様な表現力をみる問題、日常生活に関連させた事項を題材とした問題、知識・技能を活用して課題を解決する問題も作成した。

5 教科総合の平均点は、100 点満点に換算して、58.1 点であり、昨年度より 4.1 点高く、過去 5 か年の平均点より 3.7 点高かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

令和5年度  
徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績表

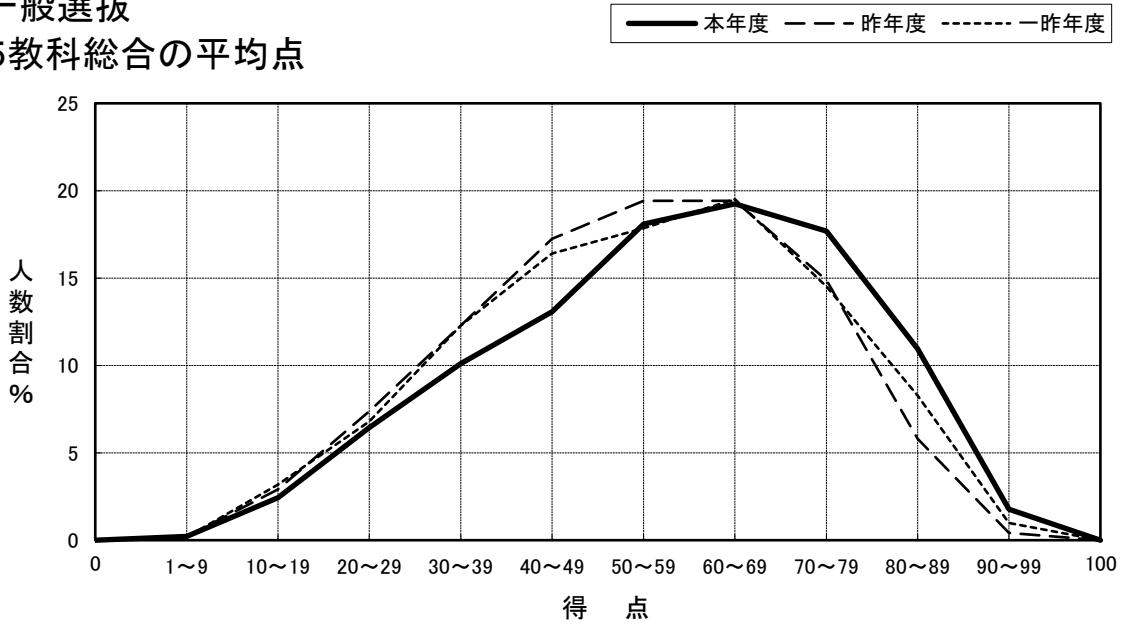
受検者総数 4302名

年度 教科	令和5年度		令和4年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和4年度		過去5 か年の 平均点
	平均点	標準偏差			平均点	標準偏差	
国語	64.6	17.1	+ 5.7	+ 5.8	58.9	18.3	58.8
数学	46.0	21.0	+ 3.1	+ 1.5	42.9	19.2	44.5
社会	58.4	21.4	- 1.8	+ 1.0	60.2	20.6	57.4
理科	60.1	20.5	+ 4.9	+ 4.1	55.2	19.7	56.0
英語	61.0	24.3	+ 8.0	+ 5.5	53.0	20.8	55.5
5教科総合	58.1	18.8	+ 4.1	+ 3.7	54.0	17.7	54.4

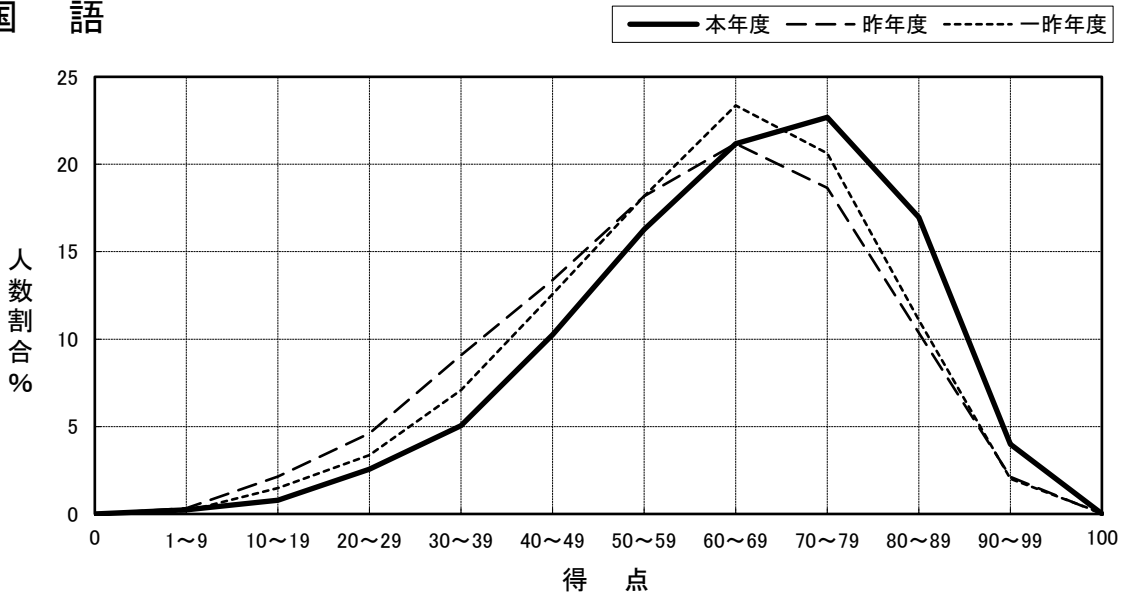
年度 教科	平均点					
	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
国語	54.0	62.6	57.5	60.8	58.9	64.6
数学	40.4	46.1	46.0	46.9	42.9	46.0
社会	53.3	54.8	61.2	57.6	60.2	58.4
理科	51.9	54.5	60.6	58.0	55.2	60.1
英語	59.0	57.4	55.8	52.3	53.0	61.0
5教科総合	51.7	55.1	56.3	55.1	54.0	58.1

一般選抜

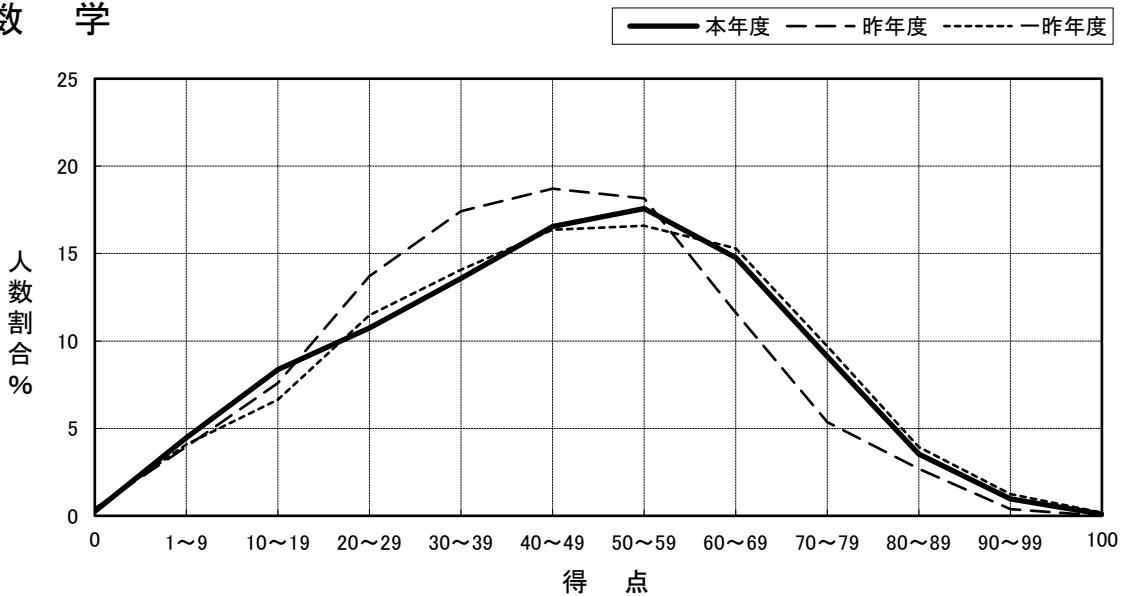
5教科総合の平均点



国語

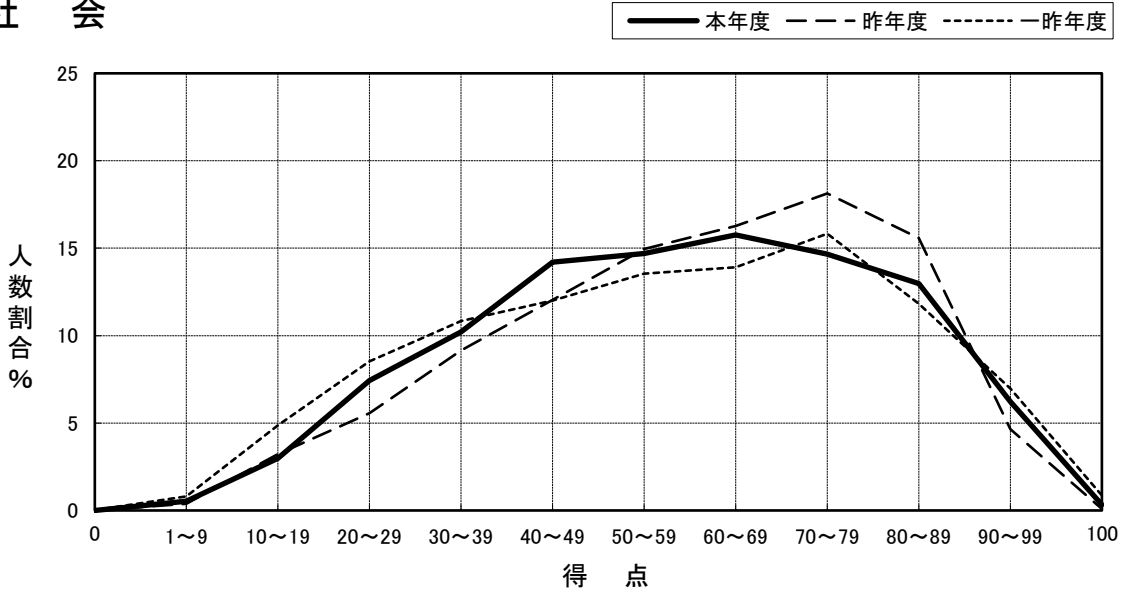


数学

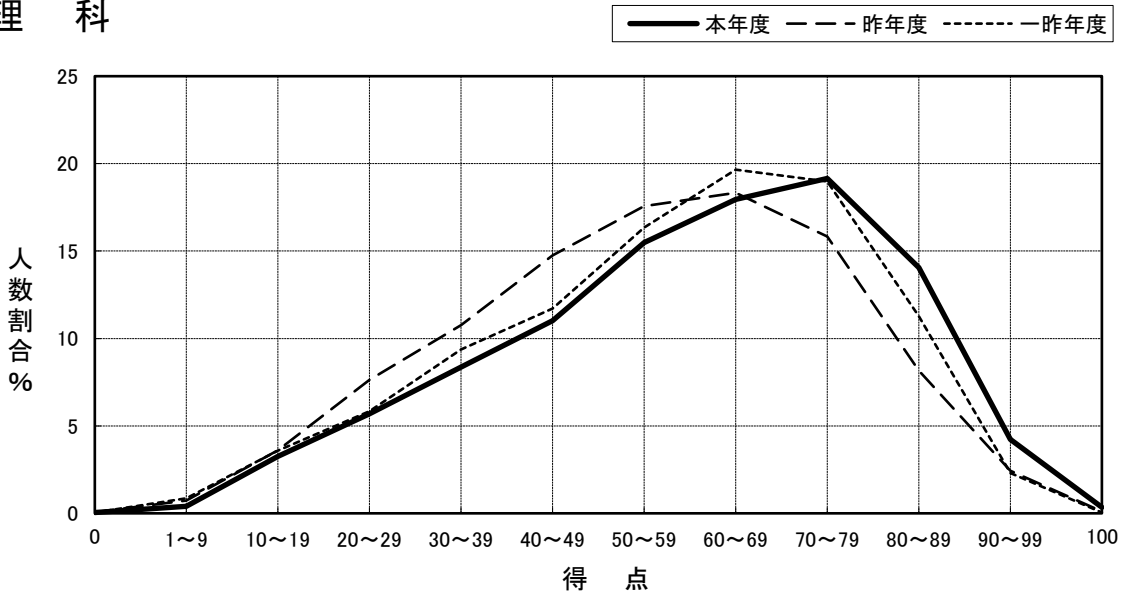




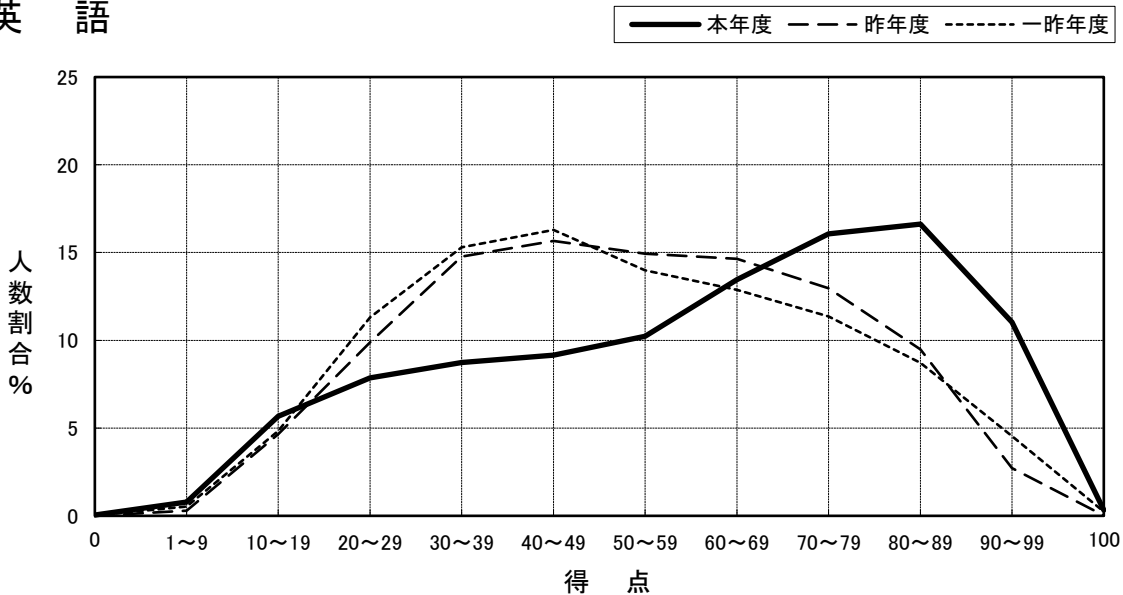
# 社 会



# 理 科



# 英 語



令和5年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(育成型選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は23.5点(100点換算58.8点)で、過去5か年の平均点に比べて0.2点高く、昨年度より1.4点低い点数であった。</p> <p>漢字、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改める問題、表現技法を答える問題等の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は、概ね良好であった。一方、文法や文章問題における本文の内容をまとめる問題で誤答が多かった。</p>
数学	<p>平均点は24.1点(100点換算60.3点)で、過去5か年の平均点に比べて2.0点高く、昨年度より5.0点高い点数であった。</p> <p>基礎的・基本的な計算問題や場合の数を求める問題は、良好な結果であった。一方、比例式をつくり値を求める問題や、円錐の体積を展開図より三平方の定理を用いて求める問題は誤答が多かった。</p>
社会	<p>平均点は16.7点(100点換算41.8点)で、過去5か年の平均点に比べて4.2点低く、昨年度より3.2点低い点数であった。</p> <p>「ヒンドゥー教」や「(衆議院の)解散」などの知識を再現する問題や簡単な資料の読み取り問題は良好な結果であった。しかし、複数の条件に合う都道府県を選ぶ問題や、地租改正の内容に関する問題などは選択式であっても誤答がやや多かった。また、明との貿易において、室町幕府に対する要求を答えさせる問題や、税の種類として「間接税」を問う問題、インターネットを利用した販売に関わる企業が、消費者に対して果たす責任を答える問題などは、誤答や無解答が多かった。</p>
理科	<p>平均点は22.2点(100点換算55.5点)で、過去5か年の平均点に比べて2.0点高く、昨年度より3.2点高い点数であった。</p> <p>「動物の有性生殖」や「金属の性質」、「火山岩」など、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であり、無解答も少なかった。一方、「燃焼」や「肝臓のはたらき」、「力の三要素」など知識が定着していない問題もみられた。また、思考力を用いて解く問題のうち、棒磁石のまわりの磁界についての問題は良好な結果であったが、惑星の特徴について資料を分析し考察する問題は誤答が多かった。</p>
英語	<p>平均点は22.9点(100点換算57.3点)で、過去5か年の平均点に比べて2.1点高く、昨年度より2.8点高い点数であった。</p> <p>Yes/No 疑問文への応答表現を選ぶ問題や、文脈から判断して空所に入る表現を選ぶ問題は良好な結果であった。一方、疑問詞を使った英語の質問に対する応答文を英文で書く問題や、自然な対話が成り立つように適語を入れて英文を完成させる問題では誤答が多かった。英文を書く問題では無解答が多かった。</p>

令和5年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は64.6点で、過去5か年の平均点に比べて5.8点高く、昨年度より5.7点高い点数であった。</p> <p>漢字、文法等の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は、概ね良好な結果であった。一方、ふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる問題、複数の資料をもとに情報を整理してまとめる問題等、思考力や表現力を必要とする問題においては誤答や無解答が多かった。</p>
数学	<p>平均点は46.0点で、過去5か年の平均点に比べて1.5点高く、昨年度より3.1点高い点数であった。</p> <p>「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、日常生活における事象を題材として数学に関連付け、データを正しく読み取ったり、データから判断した理由を説明したりする問題は誤答が多かった。また、文章から数量の関係を読み取り等式を利用する問題や、思考力を必要とする関数や図形の問題は誤答や無解答が多かった。</p>
社会	<p>平均点は58.4点で、過去5か年の平均点に比べて1.0点高く、昨年度より1.8点低い点数であった。</p> <p>「カルデラ」や「バイオ燃料」など、単に知識を再現する問題は良好な結果であった。一方、軍事費が増大した原因を選ぶ問題や、国土によって複数の標準時が設けられている理由を記述する問題などは誤答が多かった。また、ニューディール政策の内容を説明する問題や、衆議院と参議院の選挙の違いについて知識を関連付けながら考察し、記述する問題については、無解答が多かった。</p>
理科	<p>平均点は60.1点で、過去5か年の平均点に比べて4.1点高く、昨年度より4.9点高い点数であった。</p> <p>「被子植物」、「エネルギーの変換」、「状態変化」など、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、夏至の太陽光発電パネルの傾きを求める問題やひ孫に現れる形質の割合を求める問題など、実験や観察に関する説明を理解して結果を考察し、文で表したり、数値を求めたりする問題は誤答が多かった。</p>
英語	<p>平均点は61.0点で、過去5か年の平均点に比べて5.5点高く、昨年度より8.0点高い点数であった。</p> <p>全体を通して無解答が少なく、リスニング問題は全般的に良好な結果であった。また、文脈から判断し空所に入る適語を選ぶ問題や、単語を並べ替えて英文を完成させる問題は良好な結果であった。一方、まとまった分量の英語を聞いて、話し手が伝えていることを表している英文を選ぶリスニング問題や、文脈から判断し、対話が成り立つように空所に適語を入れて英文を完成させる問題、まとまった英文の概要を捉えてタイトルやキーワードを選ぶ問題などは、誤答が多かった。</p>

## 徳島県公立高等学校普通科の通学区域制見直しに伴う入学者選抜結果の概要

### 1 令和5年度入学者選抜における通学区域制

通学区域制については、令和3年度入学者選抜以降、変更はない。

【参考】令和3年度入学者選抜における変更点

- (1) 第3学区（徳島市内）において、
  - ・ 城東高等学校について、募集定員の12%以内であった流入率を廃止し、通学区域を全県一区とした。（城ノ内高等学校は募集停止）
  - ・ 城南、城北及び徳島北高等学校について、募集定員の10%以内であった流入率を12%以内に引き上げた。
  - ・ 徳島市立高等学校については、所管する徳島市教育委員会の意向を踏まえ、募集定員の8%以内の流入率を維持した。
- (2) 第1学区（県南部）において、学区内総募集定員の15%であった流入率を20%以内に引き上げた。
- (3) 第2学区（県北部～県西部）において、学区内総募集定員の10%であった流入率を12%以内に引き上げた。

### 2 結果の概要

※城東高等学校を全県一区とした令和3年度入試を境とする前後3年間の平均を比較

- (1) 通学区域外から第3学区の普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）に合格した生徒数  
平成30年度から令和2年度まで 68.3人  
→ 令和3年度から令和5年度まで 91.3人
- (2) 徳島市内の公立中学校から徳島市外の普通科に合格した生徒数  
平成30年度から令和2年度まで 80.3人  
→ 令和3年度から令和5年度まで 77.3人
- (3) 第3学区普通科（城南・城北・徳島北・徳島市立）における各学校の学区内外別合格最低点の差の平均  
平成30年度から令和2年度まで 103.7点  
→ 令和3年度から令和5年度まで 63.0点

# 各教科の大問別解答状況の概要と授業改善の視点

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p><b>【成績結果の概要】</b></p> <p>一 漢字、文法、行書等、基礎的な知識に関する問題は、一部書き取りの正答率が低いものの、概ね良好である。</p> <p>二 文学的な文章の読解に関する問題については、傍線部の指す内容を文章の中から抜き出す問題の正答率が高く、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる問題等、記述する問題では正答率が低い。</p> <p>三 複数の資料をもとに説明的な文章を読解する問題については、設問の意図を捉えて文章の中から適切な言葉を抜き出す問題の正答率が高く、本文の内容を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿って書く問題の正答率が低い。</p> <p>四 古典については、基礎的な知識に関する問題は良好であるが、内容を理解したうえで条件に沿って書く問題については、正答率が低い。</p> <p>五 資料をもとに作文を書く問題については、昨年度と比べて正答率が高い。</p>	<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>一 漢字の読み書き、語句等の基礎的な知識は、日常の言語生活と結び付けたうえで定着を図ることが必要である。</p> <p>二 登場人物の言動の意味などについて考えたり、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などに着目して読み、描写をもとに捉える力の育成が必要である。</p> <p>三 主題を読み取る力、複数の資料をもとに言葉を整理して理解を深め、記述する力の育成が必要である。言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むことがなほ一層望まれる。</p> <p>四 古典に親しむ機会を多くもたせるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れて、登場人物や作者の思いなどを想像する力の育成が望まれる。</p> <p>五 様々な資料などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめる機会を多くもたせることが必要である。</p>
<p style="text-align: center;">数 学</p>	<p><b>【成績結果の概要】</b></p> <p>基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。</p> <p>1 正しく計算をしたときの答えとなる多項式を求める問題や円柱の体積と球の体積の差を求める問題の正答率が低かった。</p> <p>2 文字を用いて三角形の面積を表す問題や四角形が平行四辺形となるときに <math>a</math> の値を求める問題は誤答や無解答が多かった。</p> <p>3 日常生活における事象を題材として数学に関連付けた問題であったが、2つのヒストグラムからデータを正しく読み取る問題や2つの箱ひげ図から判断した理由を説明する問題は誤答が多かった。</p> <p>4 問題文から数量の関係を読み取り等式で表す問題や等式を利用して式の値から適切な答えを導く問題は誤答や無解答が多かった。</p> <p>5 三角形の相似を証明する問題は誤答や無解答が多かった。また、線分の長さの和を求める問題や与えられた条件を満たす線分の長さを求める問題は無解答が多く、正答率も低かった。</p>	<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>1 基礎的な内容に関する本質的な理解や思考力を育成する必要がある。</p> <p>2 基礎的・基本的な内容を組み合わせ、問題を解決する思考力の育成が必要である。</p> <p>3 全国学力調査やステップアップテストなどを活用し、日常生活と関連した数学の問題などを通し、数学に対する興味・関心を一層高めるとともに、与えられたデータを正確に読み取り、必要な情報を整理したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりする力を育成する指導が必要である。</p> <p>4 条件の多い問題文からでも数量の関係を読み取り、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。また、問題を解決した後も、得られた結果を事象に即して吟味するなどの姿勢を育成することが大切である。</p> <p>5 問題文から状況を読み取り、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p><b>【成績結果の概要】</b></p> <p>1～5 「カルデラ」や「バイオ燃料」など、単に知識を再現する問題は正答率が高かった。一方、軍事費が増大した原因を選ぶ問題や、国土によって複数の標準時が設けられている理由を記述する問題などは正答率が低かった。また、ニューディール政策の内容を説明する問題や、衆議院と参議院の選挙の違いについて知識を関連付けながら考察し、記述する問題については、無解答が多かった。</p> <p>6 「地域の活性化につながるまちづくりのアイデア」をテーマとする学習に関わる総合問題においては、POSシステムの導入による小売店の利点を記述する問題で良好な結果となった。一方、江戸時代末期の文化の特色を選ぶ問題は正答率がやや低かった。また、生態系の保全と観光の両立を目指すエコツーリズムを答える問題では、無解答率が高かった。</p>	<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>1～5 基礎的・基本的な知識の習得が不十分な生徒に対しては、教科書の重要語句をしっかりと理解させることが必要である。また、社会的な事象について論理的に考え表現する力や、資料から情報を正確に読み取り考察する力など様々な角度から思考力・表現力・判断力等の育成を図ることが重要である。そのためには、資料の読み取り、解釈、表現の過程を重視した授業づくりが求められる。</p> <p>6 各分野で学習した成果を関連付け、身近な話題や現代社会のようすなどを多面的・多角的にアプローチできる総合的な力の育成を図ることが重要である。そのためには、日頃から単元や分野をこえて必要な時に学習成果を活用できるよう、課題の解決のために既習の知識を関連付ける授業づくりが求められる。</p>
<p style="text-align: center;">理 科</p>	<p><b>【成績結果の概要】</b></p> <p>1 基礎的・基本的な内容に関する問題の正答率は高かった。一方で、基本的な内容でも現象のしくみを問う問題の誤答が多かった。</p> <p>2 実験に関する問題の正答率は高かったが、石油蒸留塔についての問題の正答率は低かった。</p> <p>3 水中の物体にはたらく力についての問題の正答率は高かったが、塩化ナトリウム水溶液中ではたらく力について文章で説明する問題の正答率は低く、無解答率が高かった。</p> <p>4 基礎的・基本的な内容の問題の正答率は高かったが、夏至の太陽光発電パネルの傾きを求める問題の正答率は低かった。</p> <p>5 基本的な用語を書く問題の正答率は高かったが、モデル実験についての問題の正答率は低かった。</p>	<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>1 観察・実験を通じて、基礎的・基本的な内容を、生活に結びつけた知識・技能として定着させることが大切である。</p> <p>2 内容を身の回りの生活とつなげながら、深く理解できるようにすることが大切である。</p> <p>3 用語の意味をきちんと理解させるとともに、文章で論理的に説明することができるように言語活動を充実させることが大切である。</p> <p>4 用語の意味を深く理解させるとともに、問題文の内容を把握したうえで、的確に数値を求められるようにすることが大切である。</p> <p>5 観察・実験から得られた結果を基礎的・基本的な内容と結びつけられるようにし、結果が何を表しているかを理解し、考察したことを適切に表現できるようにすることが大切である。</p>
<p style="text-align: center;">英 語</p>	<p><b>【成績結果の概要】</b></p> <p>1～3 全般的に良好な結果であったが、まとまった分量の英語を聞いて、その要点を捉える問題では誤答が多かった。</p> <p>4 全般的に良好な結果であった。</p> <p>5 対話でふれられていない情報について伝える文を英語で書く問題では、正答率が低く、無解答が多かった。</p> <p>6 本文中から抜き出した文を正しいところに入れる問題では誤答が目立った。質問に対する答えになるように、自分の意見等を書く自由英作文の問題は良好な結果である一方、無解答も多かった。</p> <p>7 疑問詞を使った英語の質問に対する応答文を英文1文で書く問題や、文脈から判断し対話が成り立つように空所に入れて英文を完成させる問題、まとまった英文の概要を捉えてタイトルやキーワードを選ぶ問題などは、誤答が多かった。</p>	<p><b>【授業改善の視点】</b></p> <p>1～3 日常的な話題や社会的な話題に関する対話や説明など、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を捉える力を育成する言語活動を取り入れることが望まれる。</p> <p>4 日常的な話題について話されたり書かれたりした内容を正確に理解するとともに、自らも適切に表現する力を育てる言語活動の工夫が望まれる。</p> <p>5 内容理解に留まらず、既習事項を活用して、相手が必要としている情報を伝える力を育成する指導が望まれる。</p> <p>6 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や考えを伝え合う言語活動の実践を積み重ねることで、英語による自己表現の楽しさに気付かせる。また、求められている内容を、自分の思いが伝わるように書くことの指導が必要である。</p> <p>7 まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会をできるだけたくさん設定するとともに、話の概要を捉えたり、書き手が伝えようとしている要点を把握したりする力を育成する指導が求められる。</p>